

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 20 年 7 月 10 日 (2008.7.10)

【公開番号】特開 2002-333037 (P2002-333037A)
 【公開日】平成 14 年 11 月 22 日 (2002.11.22)
 【出願番号】特願 2001-176303 (P2001-176303)
 【国際特許分類】

F 1 6 D 1/06 (2006.01)
 F 1 6 B 2/14 (2006.01)
 F 1 6 B 5/02 (2006.01)
 F 1 6 B 9/02 (2006.01)
 F 1 6 B 33/02 (2006.01)
 F 1 6 D 1/09 (2006.01)

【 F I 】

F 1 6 D 1/06 H
 F 1 6 B 2/14 C
 F 1 6 B 5/02 C
 F 1 6 B 9/02 B
 F 1 6 B 33/02 C
 F 1 6 D 1/06 L

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 4 月 23 日 (2008.4.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 雌ネジ 1 3 を具備する第一部材と、雌ネジ 1 3 と締め付け合える雄ネジと、前記第一部材と合わされる第二部材を活用でき、前記第一部材と第二部材間を合わせて前記雌ネジと雄ネジ間で締め付けることで前記第一部材と第二部材間で压することのできる部材間の接続構造において、

前記雌ネジ 1 3 を設けられる穴 1 4 の入り口と該入り口の面間を通る溝 1 5 を設けることで第一部材に連結される片 1 6 を構成させ、前記の締め付けにより片 1 6 と第二部材間で压することができるようにしたことを特徴とする。

【請求項 2】 雌ネジ 1 3 を具備する第一部材と、雌ネジ 1 3 と締め付け合える雄ネジと、前記第一部材と合わされる第二部材を活用でき、前記第一部材と第二部材間を合わせて前記雌ネジと雄ネジ間で締め付けることで前記第一部材と第二部材間で压することのできる部材間の接続構造において、

前記雌ネジ 1 3 を設けられる穴 1 4 の入り口と該入り口の面間を通る溝 1 5 を設けることで第一部材に連結される片 1 6 を構成させ、前記の締め付けにより片 1 6 を溝 1 5 の溝幅 s を拡大できる方向に压することができるようにしたことを特徴とする。

【請求項 3】 第一部材には雌ネジ 1 3 並びに穴 1 4 の位置に対して距離を有する位置に穴 1 1 を設けられ、前記の締め付けにより片 1 6 と前記第二部材間では穴 1 1 内で前記の通り压することができるようにされていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の部材間の接続構造。

【請求項 4】 歯車或いは相対的に回転伝達自在な駆動手段に用いられることを特徴とする請求項 1 又は 2 又は 3 記載の部材間の接続構造。